

蔵書100万冊 全国屈指

県立図書館（福井市下馬町）を利用した人なら一度は、「あの大きなレンガ色の四角形の建物は何？」と疑問を持ったことがあるのではないだろうか。普段は入れない蔵書100万冊。四階は倉庫。五階は移動式書架です。四角い構造の方

全国屈指の規模なのだ。

百万冊をすべて並べるスペースはないから、大半の七十万冊は書庫に入れる。書庫に入り替えるのは古くなったり、貸し出し回数が落ちてきたり、複数あったりする本だ。書庫に入れる理由は「（開架にある）本の鮮度を保つため」（高村さん）。書庫の本も申請すれば借りることができる。

同館には購入と寄贈を合わせて、毎年約二万冊が入ってくる。毎週、選書会議を開いて約二百〜五百冊を取り寄せる。郷土資料の収集が重要ポイントだが、「丁寧に書かれている本が」「偏った内容ではないか」などでふるいにかけられるという。

春休みや夏休みなど長期休み期間には書庫も見られる親子見学ツアーを開催している。これでもかと並ぶ本の数々。機会があれば入ってみては。（藤共生）



文学館などと連携 強み

県立図書館総括司書・高村美由紀さん



ゆかりの作家が亡くなられたら追悼コーナーを設けるなど、時節や時事に合わせた特集・展示をしています。司書の醍醐味はカウンターに来られる方の笑顔を見たとき。調べ物で「これだ！」と言われると「やった！」と思います。図書館・文書館・文学館が同一施設内にある強みを生かした連携展示も行っています。



大きな四角形の5階建て建物の内部は巨大な書庫だった



70万冊の蔵書が置かれる固定書庫の内部。「図書館で手に取れる倍以上があります」と総括司書の高村美由紀さん。館内整理日の一般資料コーナー。42列の本棚に計25万冊が置かれている＝いずれも福井市の県立図書館で



館内見学も

鮮度を保つ